

公害委員会の高田和男先生、「生活と中性洗剤」と題して新婦人土浦支部の小林素子さん、「水質汚染の進行をとめよう。」と題して自治労霞ヶ浦研究会の折本弘さん「こどもと霞ヶ浦」と題して英教組の川津浩二先生、「霞ヶ浦と水がめ化」と題して土浦市民の会の長須一子さんからそれぞれ貴重な報告がございましたが、紙数の関係で詳細は割愛いたします。

以上が大体の内容でございますが、今回の「つどい」は市民、労組団体と科学者が一堂に会して、霞ヶ浦の深まりゆく汚染の現況を直視し、どこに問題があるのかを探ぐったというのが特徴かと考えられます。これまで霞ヶ浦についてはいろいろに話されて来ていますが、今回はとくに厳密に資料、データをもとにして具体的に論議されました。そして、その主体は、霞ヶ浦を生産の場というよりは、むしろ、生活の場とする住民、市民であり、またそのような市民生活に深いかかわりをもっている自治体や小、中、高校の先生方であります。市民、労組団体、科学者という一見、ニュアンスの違った人達がそれぞれのもち味を発揮しあって、しかも共通の話題で語り合うことができたということは大きな成果であると思えます。

この「つどい」で得られたものは、今後、それぞれの

団体にふさわしい方法で発展させられるでしょうし、また一致点があれば一緒に何らかの共同作業も大いに期待できるものと考えます。またその日のために、今後ともよろしく願っていたしまして、佐賀先生からのご依頼の責を一応終らせていただきたく思います。

(茨城大学農学部助教授)

白魚のどつと生るるおぼろかな

一 茶

藻にすだく白魚とらば消えぬべき

芭 蕉